

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/久保田勉

“異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌”

「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第8回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第6弾」が【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の真相と現状』をダイジェスト版として紹介することとした。



本間雄治・陳述書（2009.3.3東京地裁）その1

～「松崎盲従」のJR総連・東労組の現状を批判して新労組を結成、本部委員長に就任した本間雄治氏は、3月3日、「梁次原告(週刊現代)裁判」の被告側証人として、東京地裁に出廷した。～

1 私は、1977年に国鉄に入り、当初は北海道で勤務していました。…国鉄分割・民営化に伴う広域異動で北海道から横浜に異動しました。横浜地本では、長い間、書記長の職にありました。また、2002年には東労組の中央執行委員に選任されました。しかし、この頃から、松崎明氏の独善的な言動に疑問を抱くようになり、これに対して率直な意見を述べたところ、松崎氏に「嘘つきグループ」の一員に加わったなどと言われ、東労組の中で徹底的に干されました。東労組のこのような状況は本来のあるべき姿から外れていると思った私たちは、「東労組を良くする会」を結成し、その後、2007年6月にこの会と、私たちと志を同じくする人たちと共に、ジェイアール労働組合を結成し、現在、私は、この組合の中央執行委員長を務めています。

2 私は、かつて、JR革マル派の組織であるマンガローブの一員でした。…組合意識が高いと認められた者たちを、革マル派の機関紙・解放を購入させその学習会を行いました。この学習会メンバーはL読と呼ばれ、組織防衛のためペンネームでお互いを呼んでいました。その中でさらに上位のメンバーはAメンバーに所属し、RFと呼ばれることもあり革命的な組織とされていました。このメンバーは、10人から20人でA会議を作り、そこでマンガローブの指導を受けます。東労組では、Aメンバーやマンガローブによって構成される基本組織メンバーがそれぞれの組織の基本方針を決めていますが、この基本組織を指導するのがLC会議と呼ばれる革マル派の組織です。

3 革マル派は東労組労働者から毎月カンパを集めていました。…私が書記長を務めていた横浜地本の場合は、L読メンバーは月に3000円、Aメンバーでは25000円～50000円でした。私自身はAメンバーでしたので、月に25000円カンパしていました。また、ボーナス時にもカンパを集めていました。横浜地本だけでも月々のカンパは約40～50万円、ボーナス時で約200～300万円にのぼりました。このほかに『解放』購読で1万7000円、『共産主義者』購読で4800円年払いしました。カンパは職場 支部 地本でそれぞれ集められ、地本単位の財務担当者が集まる財担会議が月1回、目黒さつき会館の地下で開かれていました。横浜地本では私が出ていました。各地本の財担は、A会議を指導するLC会議のメンバーでもあり、…同会議には梁次氏も出ていました。東京全体のLC会議の最高責任者は石川尚吾氏でした。…財担会議には東労組だけでなく、東海労や貨物労組、西労の財担も出席していました。財担会議では、中央情勢の報告などが行なわれましたが、目的は“集金”でした。…私や梁次氏は、いわば集めたカンパを上納する側でしたが、各地本の財担が集めたカンパを受け取り党中央に渡すのは小田裕司氏と田岡耕司氏の役割でした。

【異形の労働組合指導者「松崎明」の誤算と蹉跌（高木書房）P.93～P.96】